令和７年度　神奈川県立鶴嶺高等学校　第３回学校運営協議会　議事録

次第

１　開会の言葉

２　校長挨拶

3 月 3 日に 49 期生が無事に卒業を迎えた。

また、現在 20 名の生徒がイギリス交流校訪問に出かけている。世界情勢が不安な状況ではあるが、訪問先はいたって安心で、みんな元気で研修を受けているという報告があった。

３　今年度の取組状況について

（１）国際交流委員（生徒）より

12 月に実施したワールド・スポーツ・フェスティバル(ＷＳＦ)では、今年度から競技数を増やして開催した。今年は２日間で開催するために、企画の段階で校長先生に英語による企画プレゼンテーションを行った。また、各競技やその由来の国の文化などをより知った上で競技を楽しんでもらうため、オープニング・セレモニーでクイズを実施する等工夫をした。充実した２日間にできたと感じている。

（２）副校長より

ＩＣＴ教育に関して、設備機器、一人一台端末による取組がなされた。またＡＩを活用した教科指導も実施され始めている。多くの行事を通して生徒の成長を感じている。その反面、ＳＮＳによるトラブルが多くなっていて、防止の取組を強化していく必要を感じている。鶴嶺高校の生徒は７割近くが茅ヶ崎市民で地元愛が強いので、今後も様々な形で地域貢献をしてもらいたい。学校管理面については、グラウンドのスプリンクラー、職員室の改装などこの１年間で多くの工事を行い、環境が整ってきた。

（３）学習支援グループより

現在年度末成績処理を滞り行っている最中である。またそれが完了すると、令和８年度の時間割作成など次年度の作業に移行する予定である。

（４）進路支援グループより

今年度の傾向としては、時代の風潮か、例年よりも年内入試の割合が約 65%と多かった。国公立をはじめとした難関校にチャレンジし結果を出すことができた生徒もいた。また専門学校志望者も若干多めであった。

（５）国際教育・研究グループより

今年度はディベートチームを結成し、他校(氷取沢高校、大磯高校)と交流会が持てたことなどが大きな成果と言える。また今後の目標として、授業における生成ＡＩの活用を強化・促進したいと考えている。

（６）生徒支援グループより

現２年生は、来年度の体育祭に向けて現在準備を進めている。選出されたリーダーたちは、今年度の反省点をもとに前日の予行練習・準備などのスケジュールをはじめとした内容について改善、検討を進めている。

ＳＮＳによるトラブルが増加しているが、それにかかわった生徒の特徴としては、加害者側と被害者側の両者の受け止め方の差が大きいという傾向がうかがえた。

またこの４月より、自転車利用のルールが大幅に改正される。学校としても年度内中に生徒にアナウンスすることを考えている。

(７)総務グループより

4 月の入学式、11 月の 50 周年記念式典、3 月の卒業式と各式典は滞りなく実施できた。学校管理についてはグラウンドのスプリンクラー設置、エレベーター改修、職員室改修、北棟床タイル改修、先日の職員更衣室の改修など通年で多くの改修工事が実施された結果、よりよい教育環境の実現がなされた。

(８)広報渉外グループより

学校説明会等、要予約のイベントについてはすぐに席が埋まってしまう傾向があり、申し込めなかった家庭からの問合せもあったので、次年度は申込について柔軟に対応していくことも考えている。11 月には数年ぶりに地域貢献デーを実施することができ、生徒たちも充実していた様子であった。

4　意見交換と懇談

鶴嶺高校の卒業生として、本日報告があったこと、特にＷＳＦの生徒のプレゼンのような取組を続けて、歴史を重ねていってほしい。

地域の防災リーダー養成研修などに参加されるのは多くがリタイアした高齢の方であり、若い人材が少ないことに課題を感じている。地域の取組に参加してもらえれば、それも学校生活にフィードバックするものがあるのではないかと考えている。

自転車事故等ヘルメット着用に対しての指導の強化が必要と考えている。ＳＮＳでトラブルが発生しているが、フェイクニュースなどを安易に信じない情報リテラシーに対する指導も今後必要だと考えている。

50 周年記念式典は生徒の取組を始め素晴らしかった。生徒間のＳＮＳトラブルは中学校でも問題となっている。複数の情報から正しいもの見いだすことのできる力を養う指導も必要と考えている。

地域貢献デーの花植えの体験は中学生にとっても良い効果が見られた。しかしその後の取組もあるとなお良いのではないかと考えている。防災について中学校としてできることは協力していきたいと考えている。

カリキュラムについて、国公立文系向け等、様々な分野、方向性に対して可能性があるカリキュラムをおねがいしたい。

回答：それまでの希望調査などをもとに選択パターンを説明したため、国公立文系の選択パターンを明確に示していなかったかもしれないが、現在のカリキュラムはどの国公立、私立、理系、文系、その他の進路系統のほとんどに対応できるカリキュラムにはなっている。

18 歳で成人となればクレジットカードは自由に作れるようになる。便利であると同時に、危険な面もあることから、在学中に金融リテラシーを学ぶ必要があると考える。

小学生の場合はオンラインゲームによる問題が多いのだが、これを解決するには保護者の理解も必要とするため苦労している。小学校でも日頃から他人の目を見て気持ちを伝える大切さは取り組みたい。

5　閉会のことば